

東北大の「臨床宗教師」養成講座 今年3年目

東日本大震災をきっかけとして、2012年に東北大に設けられた実践宗教学部附講座の「臨床宗教師」養成プログラムは、今年が3年目の節目。医療現場や被災地といった公の空間で人々に寄り添い、心のケアに取り組む宗教者の在り方に、宗教界だけでなく医療

や福祉の現場、教育機関などから広く注目を集め、修了者らによる全国各地の支部活動も活発に行われている。とはいえ、意欲ある臨床宗教師が実際に病院などで働く例はまだ少なく、宗教の公共性をめぐって乗り越えるべき壁は大きい。

(佐藤慎太郎)

時事

展
描

宗教者延べ76人に修了証

ケア現場へ5人

超高齢化・多死社会を
迎える中、悲嘆や苦しみ
に寄り添う宗教的ケアへ
で行った5回の研修を通

じて、延べ76人の宗教者が修了証を受け、15日から始まった第6回研修には20人が参加する。

研修を指導する東北大の谷山洋三・准教授によると、ボランティアとしてではなく「臨床宗教師」として医療や福祉などの現場で働いている修了者は現在5人。中には普段の宗教活動での信者のケアや被災者支援などを重視する人もいる。谷山准教授は「一度の研修では一定のレベルには達

しない。(修了者らでつくる)「臨床宗教師会」の支部活動などを通じて研さんを重ねてほしい」と話す。

ていく。

福祉施設が看取りの場合、遺族だけで

なく職員の精神的負担も大きく「宗教者に来てほしい」との声が、現状でも多く寄せられていると三浦紀夫・同協会理事は話す。

「ニーズはあってもうまくマッチングができていないことや、現場の職員やケアの相手への理解や知識、コミュニケーションが不足していることも問題。社会の期待は高まっており、裾野や認知を広げていきたい」と、三浦理事は活動の充実に意欲的だ。

「社会的認知」向上へ

医療や福祉、教育機関と連携必要

北海道・東北支部も立ち上げに向かい、1日に準備会議が開かれた。個別の活動を応援し、資質向上につなげることを目的に、第6回研修の修了後に正式発足する予定だ。

帯に期待を寄せる。関西支部に寄せられた修了生の声に答え、9月29日に一般社団法人「臨床宗教師・ビハラー協会」が設立された。長らく大阪府で介護・福祉活動に携わってきたNPO法人「ビハラー21」のノウハウやネットワークを活用。資質向上のための研修・講習会を開催するとともに、全国の臨床宗教師に職場をあっせんし

高野山大でも開講

来春、東京に
大学院予定

研修を受けた方がいいが、実際に活動する現場が見つかからない人や自坊の都合でなかなか外に出られない人もいる。同支部代表の高橋悦堂・曹洞宗普門寺(宮城県栗原市)副住職は「東北の被災地にいる宗教者だから

4日に開かれた21世紀高野山医療フォーラムで、大下大圓・飛騨千光寺住職は、東北大とも連携する高野山山大学院が来春東京で開講する予定を発

表し、「宗教系教育機関で臨床宗教師を養成するべきだ」と必要性を説いた。龍谷山山大学院実践真宗学研究所と曹洞宗大本

降の講座継続のため、準備を進めている。

公共の場での宗教の在り方について谷山准教授は、「合理主義的な医療なれば」と、今後の戦略を語る。

臨床宗教師研修では被災地の追悼巡礼も行われる(第5回研修・宮城県石巻市で)

